



長崎球場でのミサ参加に向けて

！人分の入場証が届かない！！

皆さんに教皇ミサへの参加の呼びかけをして、実行委員会への申し込み、バスの手配、途中で実行委員会のHPで申し込み締め切り期日の変更、参加申し込みが先着順に変更を確認。キャンセルを実行委員会へ連絡、車椅子利用者の申し込み追加、しかしキャンセル。申し込みのFAXした用紙が一枚行方不明。果たして申込書が届いているのか。一人でも入場証がない場合はどうする。

そして、やっと届いた入場証。ただ入場証が一名分足りない。実行委員会へ電話するも出ない。それではと事情をFAX、何度送信してもダメ。やっとFAXが送信されると、すぐに実行委員会から電話。登録はあるので、少し待ってくれとのこと。あれやこれやで、やっと一週間前に全員分の書類が届いて一安心。そして説明会。それでも当日現地に行ってみないとわからないことだらけ。さて無事にミサに参加出来るのか。

朝六時に笹丘教会の園庭駐車場の鍵を開け、バスと参加者を待つ。まだ暗い、バスは予定の六時半よりも前に教会に着いた。天気はあまり良くない情報、38年前は吹雪だったと聞いている。雨はまだましか。後は皆さんが七時までに集まるのを待つ。みなさん、七時出発の予定よりも早く集まり始めた。そして、全員が予定通り集合、教会を出発。途中、長崎でミサボランティアをしている兄からのメール「長崎は雷!!」長崎に近づくにつれ雲行きがあやしくなってきた。ピカ!!稲光。そしてだんだん雨粒が大きくなってきた。車中で祈り、聖歌の練習。休憩のパーキングでは福岡各地からの貸切バス、箱崎、唐津、呼子、馬渡島、...

長崎市内ではバス駐車場が遠い教会の方々は雨の中、徒歩で会場へ向かっている。路面電車の電停には多くの人。だんだんと教皇ミサの実感がわいてくる。実行委員会からの指示通り「9時30分」駐車場の陸上競技場に到着。案の定、合羽の出番。雨の中、歩いて入場証と身分証明書を持って受付へ。多くのボランティアと警察官。やっと手続きを済ませて所定のスタンドに到着。一安心したところに携帯の電話の音。『場所がわからなくなったのですが』。行方不明者がいた...。みなさん、やっと落ち着いて雨の中での食事。ずぶ濡れになりながら祈りのうちにミサの始まりを待つ。祈りが通じたのか、ミサが始まる前には太陽がサン sun。寒かったのが一転して暑くなってきた時に、『まもなく教皇様が到着されます』のアナウンス。教皇様も皆さんも無事でよかった。神に感謝。私の長崎での教皇ミサはもう終わった感。

[ご安心ください、翌日東京ドームのミサに感動]

訪日テーマは「すべてのいのちを守るため」。教皇様のメッセージの私たちへの期待、そして課題を真摯に受け止め、皆さんと分かち合い、小さなことでも具体的に歩みを進めたい。これからの本番。パパ様ありがとございました。

今年の待降節は特別。イエス様が貧しくお生まれになることの意味を深く深く味わいながら。

川原義広

2019.11.24 長崎

来日にあたって最高レベルのセキュリティが施され、3 万人以上の人々で埋め尽くされた長崎県営野球場は、カトリックのミサにもかかわらず、警官が見守る中で取り組まれました。当日の朝は雷雨を伴う雨。教皇様は長崎爆心地での式典、二十六聖人殉教地訪問、雨の中で平和のみ言葉を発信されました。その後雨が上がり、雲が減り・・・ミサが始まる午後には青空が見えてきました。それから、ミサが進むにつれて雲一つない日差し強い空模様。予報では当てはまらなかったこの天気の移り変わりに信者一同奇跡を感じ、この信仰を誇るべきものと確信したことでしょう。



会場に到着時、雨が降り続いていました 10時半頃です 会場はびしょ濡れ



ミサ開始時間が迫る頃 青空がのぞき始めました



雲一つない青空へ



雨の中、アースキャラバンの「希望の火」が運ばれました



今田神父様～！ お元気ですか～？

お～！



“オープンカー『パパモービル』でご登場”

「パパ様～！」

入場と同時に「ワァア～～！！」歓声に包まれました



松尾神父様



会場で多くの人がパパ様のお話に聴き入っている光景を観て、私は『山上の垂訓』を思いました。自然の光と音の中で、マイクもないのにイエス様のお声は遠くの人まで届いたのだろう、しみわたったのだろうと。

又、パパ様のスペイン語が理解できず（残念ながら字幕も読みづらく）悲しくなっていた時『聖霊降臨の場に集まった使徒達の言葉を群集はみな各々自分の国の言葉として聞いた』という新約のお話を思い出しました。なんと不思議なこと。でも、きっとそうだったのでしょ。

ミサが進み、パンと葡萄酒が祝福され鳴った鈴の音の美しかったこと。今、確かに主はここにお出で下さいました。

ミサが終わり、またいつもの日常が始まりますが、遠くバチカンからおいで下さったパパ様は私のようなものにも、あたたかい大切なものをくださいました（それは何かはナイショですが）大切に育てなければ。(S)



笹丘教会を出発したのは朝早く、午前中は天気が崩れ、ミサ開始までは雨の中での待機でした。それでもミサ開始時には天気は回復し、パパ様が入場するとそれまでの待ち時間の苦労は無かったかのように、場内は歓声に包まれました。特に、パパ様が途中何人かの赤ちゃんに接吻をした時の歓声は今でも忘れられません。それは、「子供たちを私のところに来させなさい…神の国はこのような者たちのものである」（マルコ 10 章 3-16 節）という言葉を出させました。またパパ様の説教で特に印象的だったのは、バチカン公会議や聖書の言葉などを多彩に引用されていることでした。それはかつて、聖パウロが福音宣教のために数多くの教会に手紙を書いたとき、聖書の言葉を数多く引用していることに類似性を感じます。聖パウロにとって聖書がちょっと前の「昔（向かし）」に書かれた書物である一方で、現代の僕たちにとって聖書は何千年も前の「古（往にし辺）」の書物だと思います。聖パウロや十二人の使徒たちが当時の人々に聖書の言葉を教え広めたように、教皇様が聖書という「古」の書から僕たちが学ぶべきことを、戦争の被害を経験した日本の「昔」の出来事を踏まえ、僕たちが生きる「現代」に置き換えて語られたことに、僕は深く感銘を受けました。そして自分もまた、聖書の言葉を自分にとって大切なこととして感じ取れるようになりたいと思います。

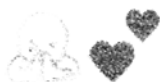
(高校生)

パパ様ミサ

昨日の長崎ミサに続き 東京ドームに向かう飛行機の中でのメモ

キーワードは歓迎、メッセージを受けとる、取り組む、発信宣教する。24日13:30長崎Nスタジアムに3万5000人の人々、海外からも！私達のパパの登場で一つになる、各国の言語も交えて捧げられる。歓迎の歌も二曲用意する、まさに、ミサ、主の食卓を囲む、世界中何処に行っても同じ、そして、唯一の主に祈りを捧げる。今回の訪日テーマ「すべての命を守るため」。そして、教皇フランシスコは82歳で、日本を訪れた。スケジュールも過酷、それでも、バチカンで受けとった約束を確実に果たし、長年の日本の思いを果たす為、私達のためにきてくださったのだ。

喜び、感謝



長崎行き当日の天気は波乱万丈、大荒れ！長崎に向け7:00に出発、ポツポツ雨、カッパを最初から装着かな？どンドン近づくに従って、雷、雨嵐、どうなるの？ある方は、諦めて帰られたと聞いた、車椅子のご家族を配慮されたてのことだった、口惜しかったに違いない。会場には、250台の大型バス、大会準備、運営も大変だった事だろう、セキュリティも厳しく、スタンドとフィールドと入り口も最初から分けられ、想定外の対応、仲良し夫婦の我々も別れ別れになってしまった（^^）

席に着き、色々な対応に追われ、心の準備もなかなか、そしていよいよ、教皇様が車に乗って目の前に登場、熱気と、興奮、その時は、すでに太陽が降り注ぎ、熱い奇跡だよーと皆んな思ったに違いない。

ミサも終わり皆、興奮覚めやらぬなか、笹丘教会のみんなは、17:30まで待たされ、皆さん家に帰り着いたのは、21:00を過ぎたあたりだった。

ごミサの感動は次回の機会に。今後はパパ様のメッセージをしっかり受け止め、さあ、これからだ。

川原圭子

教皇様のミサ終了後、バスを待つ皆に感想を一言伺いました

- ・神々しい一日でした。
- ・感激の一言！
- ・新たに信仰の喜びを感じました。
- ・とっても感動、感激して泣けて涙が止まりませんでした。今も思い起こすと涙が出ます。
- ・神の恵みをすごく強く感じました。今日のミサに与れたことにすごく感謝します。
- ・あれだけ雨が降っていた中、ミサの前に雨が上がった。長崎に奇跡が起きた、自分たちの純粋な気持ちが通じたと感じた。
- ・体調は悪かったけど皆の祈りのおかげで痛みがとれた。感動の一日！
- ・球場から見える空に鷲が飛び、鳩が飛び・・・長崎が祝福されているようで幸せ一杯な気分でした。
- ・晴れてよかった！
- ・座席が教皇様を通る真ん前だった。通られた時ジーンときた。大へん幸せ！
- ・教皇様を見たとき夢かと思った。
- ・教皇様を見たとき涙が出ました。ミサが始まる時間が近づくにつれ、天気が晴れそれは奇跡でした。素晴らしいミサでした。天気の変化は皆の願いが通じたと感じました。行く前は色々心配していたけど現地についたら全て心配が吹き飛びました。
- ・雨が上がったので、雨教皇かと思っていたら、晴れ教皇でした！
- ・出てよかった！
- ・感動しました。涙は何とかこらえました。
- ・教皇様から口ザリオを祝別してもらいました。
- ・教皇様が前を通った時胸がジーンときた。不思議な感覚だった。
- ・すごかった！
- ・天気の変り変わりに奇跡を感じた。



教皇様がお見えになる一週間ほどまえから、毎日11月 24 日の天気、気温の心配をしていました。その心配とは裏腹に、御ミサ開始前の青空は、神様から私達への最高のプレゼントでした。また、この度の御ミサに高一の息子、中一の娘、また笹丘教会の方々と与れたことに感謝いたします。

先日、大名町教会で、「ローマ教皇になる日まで」という映画を見ました。御ミサの時の教皇様のやさしく、穏やかな表情の裏にはたくさんの悲しみを背負っていらっしゃることを感じ、自分の存在が小さく思えてきました。少しでも近づくことができるよう祈り続けたいと思います。神に感謝!

藤村徳子



長崎の朝は雷を伴う雨。しかし、この日の最高気温は21度との予報だったので薄着で構えた私は寒さを感じて、このままミサまでもつのだろうかと不安になりました。しかし、時間が経つにつれて雨がやんで、そのうち青空がのぞくようになり、ミサが始まる頃にはなんと日差しまでさしてきました。予報では全く当てはまらなかったこの気象に奇跡を感じずにはいられませんでした。

パパ様の入場と同時に「きゃー」とマイクを通して興奮した信者たちの声が響きわたりました。スタンド席からは車上のパパ様の様子がよくわかりました。二人ほどの赤ちゃんをパパ様が抱かれ、その姿に見惚れました。カトリック信者にとってパパ様が同席するミサに与れることは最高のお恵みだとこみ上げるものがありました。しかし、こんな貴重なミサなのに、雲一つない青空のお恵みが強烈すぎて、無防備の顔に強い日差しが当たるわ、上下雨具を着ていた体が蒸し風呂状態になるわでミサに集中できなくなってきました。ご高齢のフランシスコ教皇様がこれほどまでに精力的に動かれているのになんと情けないことか。最高レベルの国賓待遇を受ける宗教のトップを持つカトリック信仰に誇りを持ち、パパ様の行動を無駄にしないよう「伝える喜び」を積極的に実践しなければと使命を感じ、また今日の御ミサの成功の陰で、会場設営、運営に携わったスタッフの皆さんに深く感謝し、感銘を受け、満たされた一日となりました。(N)

「長崎は先着順になりました」この知らせを聞いたとき、少し遅れて申し込んだ私はとても不安になっていた。わが家の祭壇にあるヨハネ・パウロ 2 世の写真に向かってすがる思いで祈った。「パパ様、お願いします…家族 4 人で、ミサに与れますように…!」

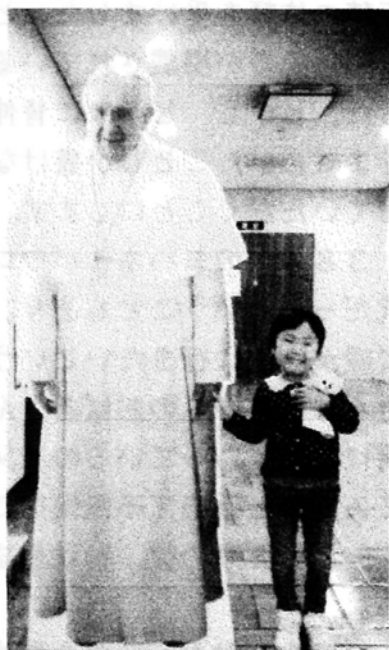
無事長崎行きが決まり、一番気掛かりだったのは、普段から手を焼いている娘のことだった。(もしもの時は、途中で帰ろう…)しかしこちらの心配をよそに、当の本人はパパ様に会えることを非常に楽しみにしていた。パパ様と外国の子供が触れあう映像を見ては羨ましがり、「パパ様に、チュウしてもらおうんだ」という淡い期待を抱いて長崎へ向かった。

行きのバスの中で、娘は思いの外上機嫌だった。しかし、あの大雨には誰もが不安を感じずにはいられなかっただろう。あれほど屋根

の有り難さを感じたことは今までなかった。球場で、サンドイッチを雨に濡らしながら食べていた時は気が遠くなる思いがしたが、最終的には、晴天の中パパ様をお迎えする事ができた。そしてパパ様に興奮し夢中になってしまったが、本当の主役はイエス様。ミサ中そこに、確かに神が臨在しておられるという強い空気を感し、それをしっかりと味わうことができた。胸に熱いものが込み上げてきて、深く感動した……。娘はパパ様と握手もできなかったと(あまり見えていなかった様だ…)しばらく不満を言っていたが、「今度、ローマに会いに行く!」と固く心に誓っていた。

途中晴れてきた事は奇跡だったが、私にとっては大きなご迷惑をお掛けする事なく過ごせた事が本当に奇跡だった。普段の生活に戻り、また日々の戦いが始まっているが、教皇様来日を通して神様がたくさんのお恵みを注いでくださった事を信じ、忘れないようにしたい。最後に、川原会長を始め今回の御ミサに向けて準備に苦勞して下さった方々、当日お世話して下さいました。笹丘教会の皆さんに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

齊 葵



ローマ教皇来日記念企画展
大名町教会にて

今回「パパ様訪日記念企画」として、「教会だより」の編集委員の方から原稿の依頼を受けました。とてもありがたく思いながら、一方では、様々な関係記事が掲載されている中で、今更私が何を書けるだろうかと悩みました。しかし、どんなに背伸びしても所詮身の丈に合った（某大臣ではありませんが）ことしか書けないだろうと、思い直して（開き直って）書かせていただくことにします。

38年前のヨハネ・パウロ2世教皇様の吹雪の中のミサでは、まだ10代だったということもあり、パパ様のミサに与れた喜びより、早く終わって暖かい所に行きたいという気持ちの方が勝っていました。そのとき私の近くにいた一人のおばあさんが、両手を合わせた姿勢で全く動かず、頭や肩に雪が積もっているのを父が見て、私に「生きとるか死んだるか、突いてみろ」と極めて不謹慎なことを言ったことを、もっともよく覚えています。あのミサの後、私は生まれて初めてしもやけというものを体験しました。

今回のミサが行われた球場のすぐ近くに、かつて私が通った高校がありました。今は長崎市の郊外に移転し、跡地には県営体育館が建っています。その高校の野球部は県内でも強豪チームで、毎年夏の甲子園県大会は次々と勝ち進み、父の母校の海星高校とよく対戦していました。今年の夏の県大会決勝は、父の写真とともに私も観戦し、海星高校の勝利を見届けました。そのわずか4ヵ月後、同じ場所で再度父の写真を携えパパ様のミサに与れました。

最近私の友人の一人が、パパ様の訪日のことについて私にこう言いました。「教皇の核兵器廃絶への強いメッセージには、改めて、正しいこと、大切なことを決して忘れてはいけない、諦めてはいけないよと、教えられた想いがする」

友人はキリスト教徒ではありません。しかしこの言葉を聞き、私以上にしっかりとパパ様のことばを、想いを受け止めていると、強く感じました。そして私はといえば、ミサに与りながらこの友人以上の一体何を受け止めたかどうかと、恥じ入るばかりです。

二度あることは三度あるといいますが、私の残りの人生の中で、またパパ様の訪日のお恵みに与れるかどうかわかりません。しかしパパ様が来られるより、自らパチカンでパパ様のミサに与りたい、そのために無駄使いをやめ、費用を貯めねばと思っている今日この頃です。

藤渕みどり





神父様方もこの歡喜の瞬間をカメラに収めずにはいられませんでした



祭壇へ 雨水が溜まって足元が悪い中 ゆっくりと歩かれました



長崎ミサ終了 3 時過ぎ。広島へと向かわれました 雲一つない青空の中で...

笹丘からもスタッフとして前日から泊まりがけで当日早朝から働きました 幸せでした



到着して間もないスタンド席の笹丘教会の仲間

上智大学ご訪問 11月26



上智大学の四谷キャンパスにて
教皇様へ記念品が手渡されました。手渡したのは今年笹丘教会の成人式に参加された、神学科の鈴木隆典さんでした。



教皇様と握手をしました



教皇様への記念品は『マリア観音像(上智大学キリシタン文庫所蔵品)』の目録です



写真は
上智大学
提供

左から

- ・学生代表(鈴木さん) ・アイダル・ホアン・カルロス神父様 ・隣道学長
- ・教皇様 ・佐久間理事長 ・デ・ルカ・レンゾ神父様(イエズス会日本管区長)

編集後記

長崎のミサは、参加すること自体に緊張感がありました。原稿を拝読していると、その時の感覚がよみがえります。また、魅力ある写真や情報がいってきて、広報紙作りにどんどん熱が入っていきました。特に今年の成人式の記事として載せた方が、教皇様と握手をされたという情報は、こちらまで興奮しました。この広報紙ではうまく伝わらないかもしれませんが、広報の意義をかみしめています。ここまでの力をくださった全ての事を、神に感謝します。

広報委員長 西山淳子

2019.12.28
発行

発行:カトリック笹丘教会 広報委員会
福岡市中央区笹丘1-16-1 TEL761-4504 Fax 761-4524